

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：19330106
研究課題名（和文） 職業と家族とパーソナリティについての長期追跡調査の日米比較分析
研究課題名（英文） A US-JAPAN COMPARISON OF LONG TERM FOLLOW UP SURVEYS FOR OCCUPATION, FAMILY AND PERSONALITY
研究代表者
吉川 徹（KIKKAWA TORU）
大阪大学・人間科学研究科・准教授
研究者番号：90263194

研究代表者の専門分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学
キーワード：階級・階層・社会移動

1. 研究計画の概要

現代日本社会における社会階層とパーソナリティの関連の研究は重要である。そこで、日米比較という視点で、過去30年の日本人のライフコースを論じる。その方法は自らが実施収集した社会調査データを、比較対照のアメリカにおける社会調査データと比較するというものである。

比較の結果については、国内外で積極的に発表し、知見を同分野の学術研究の進展に役立てる。

2. 研究の進捗状況

この研究では、計画どおりに28年のインターバルをもった長期追跡パネル調査のデータの二次回収し、回収されたデータのチェックと整理を行ない、コーディング、時点間比較データセット、日米比較データセットの構築がなされた。

研究課題としては(1)職業と家族とパーソナリティの関係性の日米の比較、(2)日本人のものの考え方の変化の把握、(3)中高年期におけるライフコース変容と意識変容の関係の解明をめざした。これら全てについて、基礎分析から、応用多変量解析まで順調に進めることができた。

特に、他に類例を見ない貴重なデータをもって実施された日米比較研究は、共分散構造方程式モデルを用いた多変量解析の結果をもとに国際学会での複数の報告を終え、研究論文の投稿の段階に至っている。

また研究成果の刊行物としては、全370ページの報告書冊子を作成し、調査の経過と、学説の整理、基礎分析、応用分析などの一連の成果をまとめた。この冊子はpdfファイル

でウェブ上に一般公開している。

研究成果報告と並行して、調査データのWEB上での公開・解析システムを導入した。まずアメリカの共同研究先から公開の許諾を得て、日米比較分析が可能なデータの公開用のデータセットの作成を完了した。そして2010年1月に日本語版、英語版の日米比較データの供用を開始している。

現在は、研究成果の学会報告のほか、複数の研究論文の学術雑誌への投稿を進めている。同時に、研究成果を一般書籍等で公開していくために、その草稿をまとめ出版社との交渉を進めている。

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

(理由)

現在までに、所定の計画の大半が終わりしており、最終年度に、現在進行している論文投稿や学会発表を進めていけば、計画は達成できる。

4. 今後の研究の推進方策

原則として、当初の研究計画を予定通りに進行するが、科学研究費補助金計画の研究計画最終年度の申請によって、さらに発展した研究へと展開する計画を立てている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

① 阪口祐介、「長期パネル調査をもちいたパーソナリティの安定性についての日米比較

分析—コーンとスクーラーの研究との比較」、
『社会と調査』、4号、印刷中、2010、査読有

②三谷はるよ、「女性の専門ケア志向の縦断的
分析」、『年報人間科学』31号、133—153、
2010、査読有

③長松奈美江・吉川徹、「ポスト産業化期の
学歴格差」、『フィナンシャル・レビュー』、
92巻、73—92、2009、査読有

④長松奈美江、「技能変数をもちいた所得決
定構造の分析」、『理論と方法』23(1)、73—
89、2008、査読有

〔学会発表〕(計14件)

①Yusuke Tanabiki, Yusuke Sakaguchi, Sho
Fujihara, Masahiro Hayashi, Scott North,
and Toru Kikkawa, Specifying the
Relationship between Job Conditions and
Psychological States: Comparative
Analysis of Japanese and American Workers,
Annual Meeting of the American
Sociological Association, 2009.8.11,
Hilton San Francisco, USA

②Jun Nakahara, Effects of role loss and
productive role on self-esteem of the
elderly in Japan and America,
Gerontological Society of America 61st
Annual Scientific Meeting, 2008.11.22,
Maryland, USA

③ Sho Fujihara, The Similarity of
Orientations between Spouses and its
Change over 20 Years: Comparison between
the U.S. and Japan, Anthropology of Japan
in Japan Fall Meeting 2008, 2008.11.9,
Osaka University

④Yusuke Sakaguchi, Change and Stability
of Respondents Social Orientation,
Anthropology of Japan in Japan Fall
Meeting 2008, 2008.11.9, Osaka University

⑤Toru Kikkawa, Life-time Value Change in
Contemporary Japan: Basic Data Analysis of
a US-Japan Comparative Panel Survey;
Research Overview, Anthropology of Japan
in Japan Fall Meeting 2008, 2008.11.9,
Osaka University

〔図書〕(計3件)

①吉川徹著『学歴分断社会』、筑摩書房、2009

②吉川徹、太郎丸博 分担執筆『講座社会13

階層』、東大出版会、2008

③吉川徹編著『階層化する社会意識 : 「職
業とパーソナリティ」の計量社会学』、勁草
書房、2007